

世界救世教⑤之光教団 春季大祭・豊穰祈願祭 教主様お言葉

於：⑤之光教団本部

皆様、本日は春季大祭、そして、豊穰祈願祭おめでとうございます。

只今は、皆様を代表して、〇〇布教所の〇〇さん、また、いつのめ教団を代表して、〇〇教会の〇〇さんより、感謝奉告のご発表をいただき、ありがとうございました。

お二人の真心からなるご発表をお伺いし、皆様が一途に信仰を求めておられるお姿に触れ、心打たれるとともに、このようにして、皆様とご一緒に学び、成長させていただける、その嬉しさを胸がいっぱいあります。

また先程、成井理事長は、現在の困難な状況を、一人ひとりが信仰を深めていくためのチャンスと捉え、ご自身の心に沸き上がる思いと決意を披瀝されました。

その力強いご挨拶は、私の心に深く迫るものがあり、大変心強く、頼もしく感じさせていただきました。

皆様には、現在、教団が直面している状況について突然耳にされ、驚きと共に、これから教団はどうなるのだろうと心配され、不安な思いをお持ちの方も多くいらっしゃると思います。

そうした状況を踏まえて、この度、⑤之光教団より皆様方に対し「内報」が発行されました。皆様もすでにお読みのことと思います。

私もその「内報」を拝見いたしました。世界救世教の仲泊管長、そして、⑤之光教団の成井理事長を始めとする責任役員の方々が、現在の事態に対し、確固たる姿勢をもって適切な対応をされるとともに、主神に全身全霊をもってお仕えされた明主様を模範とし、私と一つ心で進もうとされる、そのお心に触れ、感謝と感動で胸震える思いであります。

皆様が直面されている問題は、私自身の問題でもあります。

現在、皆様が置かれている状況に対し、私は、明主様のみ心を尋ねつつ、断固とした姿勢を貫いてまいり所存であります。

私どもにとって、乗り越えられない困難など決してありません。

明主様は、困難を乗り越える力を、私ども一人ひとりの中に用意して下さっています。

今後とも、私は、明主様を真に求めていかれる皆様と思いを共にさせていただき、辛く苦しい時も、嬉しく楽しい時も、倦まず弛まず、皆様と力を合わせて前進してまいりたいと思っております。

さて、誠に恐れ多いことではありますが、私どもは、主神によって創造さ

れた者です。

主神によって創造されていない人など、一人もおりません。

その重大な事実を明主様から知らせていただいた者として、私どもは、一人ひとり、主神に対し、“わたしはあなたによって創造された者です、と断言させていただく必要があると思います。

主神は、明主様が「霊主体従の法則」をお説きになりましたように、すべての原因の世界である天国において、あらかじめ、万物の霊と共に、私どもの霊を用意され、その原因の世界から、形ある世界の創造をお始めになり、そして最後に、私どもを地上にお遣わしになりました。

主神が私どもを地上にお遣わしになったのは、一人ひとりの自我意識という、心豊かな人間性をお創りになるためであります。

しかしながら、それだけではありません。

主神の創造のみ業は、決して一方通行ではないのです。

すべては主神から出て、主神に帰る、これが創造のみ業です。

主神は、地上で個々別々の自我意識を持たせた私どもを、今度は、万物と共に、再び天国に迎え入れ、ご自身の子として、もう一度生まれさせてくださろうとしておられます。

そして、その天国で私どもと共に住んでくださり、常に新しい創造のみ業に私どもをお使いになろうとしておられます。

このようにして、地上のすべてが天国に立ち返って、天国と一つになり、主神にお仕えさせていただくことが、本当の意味の地上天国建設、すなわち、主神の創造のみ業なのではないでしょうか。

私どもの中で創造のみ業を行っておられる主神は、私どもが天国に立ち返ることのできる道、すなわち、メシアの御名を私どもの中に用意してくださいました。

だからこそ、主神は今、私どもに対し、“あなたを天国に迎え入れよう、と、一人ひとりに呼びかけてくださり、私どもの返事を待っておられると思えてなりません。

私どもは、その呼びかけにお応えし、個々別々に持たされた自由意志をもって、“天国に立ち返らせていただきます、とお返事させていただくことこそ、主神にお仕えすることであり、また、主神が最もお喜びになることなのではないでしょうか。

私は、明主様が人間という存在について、「心の中心に魂がある」とお述べになり、また、「魂の故郷すなわち本籍地ともいべき根源」があることをお説きになったのは、私どもの意識の中心に天国が存在することを、私ど

もに確認させようとしておられたからだと思います。

私どもが立ち返るべき天国は、私どもの中に確かに存在しています。

だからこそ、主神は、明主様を通して、天国に「来れ」、天国に「誘う」などと仰せになって、私どもの心を少しでも天国に向けさせ、すべてのものが天国に立ち返ることができるように努力しておられるのではないのでしょうか。

明主様は、また、数々のみ教えを通して、本教はあらゆる主義思想を「包含」するものであることを強調しておられます。

例えば、『第三宗教』と題するみ教えの冒頭、「本教が宗教として、既成宗教並みに見られているのは致し方ないとしても、実は既存宗教とは比較にならないほどの著しい違いさのあることである。第一本教には、神道も仏教もキリスト教も、哲学も科学も芸術も包含されており、また左派も右派も、資本主義も社会主義も共産主義も勿論包含されている」と述べておられます。

私は、明主様が「包含」というお言葉をお使いになったのは、宗教を始め、いろいろな主義や思想、哲学、また、政治、経済、科学、芸術など、すべての源が主神にあり、主神が掌握しておられることをお示しになろうとしていたからではないかと思います。

また、『本教と大道主義』と題するみ教えの中で、明主様は、「宗教の目標は、争いのない社会を作るとすれば、何よりも、自己独善から他を排斥する狭量を改めなければならない」とお説きになりました。

明主様は、私ども人間の持つ独善性や心の狭さに気づかせてくださいました。

主神は、そうした無知で思い上がった私どもを赦してくださり、私どもを通して、主義思想を始めとする、すべての営みをお受け取りになろうとしておられます。

私どもは、まず、自らの内なる天国に立ち返らせていただき、今まで人間のものとしてきた、宗教を始め主義思想など、様々な営みを、明主様と共にあるメシアの御名にあって主神にお返し申し上げ、主神がお使いになる営みとしていただきたいのです、と願うべきではないでしょうか。

このようにして、主神は、私どもをお使いになり、私どもと交流されながら、常に新しく、新しくと、一瞬も停滞することのない創造のみ業を私どもの中でお進めになっておられます。

冒頭に私は、現在の教団の状況について、私どもは困難に直面している、と申し上げました。

しかしながら、果して私どもは、現在の状況を困難と受けとめるだけでいいのでしょうか。

明主様と共におられる主神は今、私どもを、私どもが困難と感じる状況の中に置いてくださって、少しでも主神ご自身に心に向けさせ、ご自身の思いに触れさせてくださろうとしておられると思います。

主神は、現在私どもが困難と感じている状況を、どのような思いでご覧になっていらっしゃるのでしょうか。

その主神の思いを、私どもは尋ね求めさせていただく必要があると思います。

明主様のお歌に、「天国の産声今や拳げむとし世は陣痛の悩みの中なり」というお歌があります。

私どもの今の悩みが陣痛であるならば、すでに新しい子供が母体の中で生き生きと存在しているように、天国という私どもの中心には、すでに新しいものが存在し、働いておられるということではないのでしょうか。

私どもが今、善と悪との間を行ったり来たりする、堂々巡りの心の姿、また、人間性が醸し出す、権勢、権力、支配、所有、優越性をもって、人間同士が競い合う姿を見せられたり、自分自身が巻き込まれたりして、それを困難と感じ、悩みと感じさせられるということは、私どもの中で、すでに新しいものが成し遂げられ、生き生きと働いていることを、私どもに気づかせてくださっているからではないのでしょうか。

新しいものが生き生きと働くことができるのは、主神が、すでに、人類が長い間引きずってきた相克の世界にピリオドを打ってくださったからなのです。

ですから、主神は、私どもを、もはや闇の世界において養い育てておられるわけではありません。

主神は今、私どもを、成し遂げられた新しい創造の息吹の中に置いてくださり、常に私どもを赦し、浄め、救い、天国に迎え入れ、甦らせてくださっているのです。

主神は、私どもを天国に甦らせ、私どもが困難と感じる状況にすでにピリオドを打ってくださっているのです。

私どもは、その主神を信頼申し上げ、「天国に立ち返らせていただきますので、新しい創造のみ業にお仕えさせていただきたいのです」と申し上げ、明主様と共にあるメシアの御名にあって、すべてを主神の栄光として帰させていただかなければならないのではないのでしょうか。

そして、今までの人間主体の営みに主神がピリオドを打ってくださったの

ですから、私どもも、勇気を出して、人間主体の営みにピリオドを打たせていただく必要があるのではないのでしょうか。

明主様は、「法難」と題する一連のお歌をお詠みになりましたが、その最後のお歌は、

「如何ならむ悩みに遇ふも躡^{ため}らはじ誠一つに進みゆく身は」というお歌があります。

私は、明主様のお導きのもと、誠そのものであられる主神を信頼申し上げ、悩みとを感じるものがどのようなものであろうとも、新しいものがすでに働いていると認め、ためらうことなく、明主様が成し遂げられた道を、皆様と共にまっすぐに進ませていただくことを、ここに決意いたします。

皆様、明主様が全人類のために用意してくださった、全く新しい、真^{まこと}の救いの道を歩ませていただくようではありませんか。

終わりに、明主様と共にあるメシアの御名にあって、父母先祖の方々と共に、万物と共に、吸う息吐く息、吐く息吸う息のうちに、すべてを成し遂げておられる主神をお讃え申し上げます。

ありがとうございました。

以 上